



県政に勇氣！ 南魚沼に元気！

ひぐち  
秀敏

# 元気通信

2023/1 第14号

発行責任者：柴田恵美子  
南魚沼市塩沢1412-2 阿部  
ひぐち秀敏後援会事務所  
電話・FAX：025-782-5233

## さらなる飛躍の一年に

### 2月26日に県政報告会を開催

新年明けましておめでとございます。

今年は卯年です。卯年は、芽を出した植物が、目に見えて大きく成長する年といわれています。また、うさぎは飛躍や豊穰、子孫繁栄を現すともいわれます。今年がみなさんにとって素晴らしい年で

あることを祈念いたします。ひぐち秀敏県議もさらなる飛躍に向けて活動してまいります。

策などの課題について、その現状と、ひぐち県議の取組みを報告します。

期待されています。岸田政権は12月22日、GX（グリーン・トランスフォーメーション）

実行会議で、原発の新規建設や60年を超えての運転を認める基本方針をとりまとめました。

2月26日に南魚沼市民会館で県政報告会を開催します。新潟県が抱える県財政危機や柏崎刈羽原発の再稼働、医療再編、コロナ禍からの経済振興、農業政

4月には統一地方選挙が行われます。県議会の構成がどのように変わるのかが注目されます。県民に開かれた、多様な意見が反映される県議会となること

東京電力柏崎刈羽原子力発電所の再稼働議論の行方が注目されます。花角知事は「3つの検証」が終わるまで再稼働の議論はしないとしています。その動向が注視されます。

県議会の果たす役割も重要です。ひぐち県議は再稼働議論においても、県民の声をしっかりと反映させていきます。

「じいちゃん、歯が抜けたよ」孫娘が抜けた乳歯を見せながら「どうして抜けたの」と訪ねてきた■「子どもの歯はお仕事を終えて、大人の歯にバトンタッチをするんだよ」。孫は「さようなら」と歯に話しかけていた■岸田首相は政府方針を転換し、原発を積極活用する方針を打ち出した。東京電力福島第一原発事故を受け、世界が脱原発に動いている中であって、国民の声を聞こうとしない■計画から建設まで約20年かかると言われる原発では、現在の電力不足を賄うことはできない。東京電力は「発電時に二酸化炭素を出さない」と言うが、ウラン採掘などには多量に発生する■仕事を終えた原発と首相には一日も早く「さようなら」と言いたい(ひ)



お誘い合わせのうえ  
おいでください。

#### ひぐち秀敏県政報告会

日時：2月26日(日)  
14時～15時15分

会場：市民会館・大ホール

来賓：米山隆 一衆議院議員

(予定)：梅谷 守衆議院議員

打越さくら参議院議員

## 獣医師の欠員状況

年 度	令和2年	令和3年	令和4年
人 数	2人	6人	7人

※4月1日時点の欠員数。

※令和5年4月1日採用の獣医師採用選考  
考査が1月29日に行われます。6人程  
度を採用予定です。

## 令和3年度20・30代退職者

部 局	知事部局	病院局	教育委
人 数	28人	48人	107人

※教育委は、小中高特別支援学校の教職員。

## 災害等に備え体制整えよ

1月6日、村上市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザの陽性が確認されました。殺処分の対象となる鶏は県内最多の約130万羽で、全国でも昨年12月に青森県で発生した約137万羽に次ぐ規模です。家畜伝染病予防法は、家畜の伝染病の発生の予防及びまん延の防止のための措置は都道府県の責務と定めており、県では2週間以内の処分完了に向けて対応しています。鳥インフルを含めた県の災害など発生時の体制について、みていきます。

ひぐち議員は2019年9月定例会の連合委員会、県職員が大幅に削減されてきた中、災害時にどのような体制で臨むかたどしました。花角知事は「本県のみで対応が困難な大規模災害が発生した場合、

合には、他の都道府県から人的支援を受ける体制を整えている」と答弁しています。その後、新型コロナウイルスの感染拡大、昨年8月の県北部豪雨、昨年12月の阿賀町での鳥インフルエンザなど、災

害等が相次ぎました。ひぐち県議は昨年12

## 人員削減で職場は限界

村上市で発生した高病原性鳥インフルエンザの殺処分が続いています。殺処分は県職員が1班75人体制で4時間ずつつ交替で作業し、1日に6班計450人が24時間体制で作業に当たります。災害派遣要請を受けた自衛隊員も1日に述べ150人が作業に当たるほか、県内自治体職員も支援に派遣されています。

村上地域振興局は昨

月定例会の一般質問で、改めて「災害等の非常時にも対応できるよう人員増に舵を切るべき」と求めましたが、知事は「災害時等の対応は、別途適切に検討すべきもの」として、人員増には否定的な考えを示しました。

年4月の地域振興局体制の見直しで、企画振興部が廃止されるなど人員が削減されました。

鳥インフルエンザへの対応は、1支所を含む県内5か所の家畜保健衛生所が中心的な役割を担います。鶏の殺処分をはじめ、汚染物質の埋却等の防疫措置の指揮を執ります。サ

ポート基地や集合同所の運営、他の農場に対する衛生管理の徹底指導も行います。その主体は獣医師ですが、令和2年度から欠員があり、今年度は49人の欠員のところ7人の欠員

## 欠員・若年退職も増加

さらに8月の県北部豪雨による災害復旧業務に追われる中での鳥インフルエンザ発生でした。4時間交替での体制が組めない部署もあり、職場からは限界との声も聞かれます。

若い職員の退職も増えています（上記表）。人事課が「令和元年度から潮目が変わった」というように、知事部局における20代、30代の退職者はそれ以前の10人前後から倍以上に増えました。病院局、教育委員会でも増えています。

県民の命と暮らしを守るためには、災害等に対応できる人員体制が必要です。他都道府県の多くは職員定数を増やしています。新潟県も増やすべきです。

2024年4月  
北里大学が健康科学部開設へ

北里大学は、南魚沼市黒土に2024年4月を目途に新

たな学部（健康科学部（仮称））を開設すべく、文部科学省への手続きを進めることとしています。北里大学保健衛生専門学院（写真）は、2024（令和6）年度以降の学生募集を停止します。



## 花角知事の発言

2018年5月23日 公約発表会見

検証結果が示されない限り、再稼働の議論を始めることはできない。県行政のリーダーとして信を問うという形がよい。辞職して意見を確認することもある。

2018年6月12日 就任記者会見

検証委員会の答えがまとまる段階で、リーダーとして結論を取りまとめ、県民に示し、納得いただけるか意思を確認する。

2022年5月29日 記者会見

決めているものはないが、信を問う形が最も明確で重い。一般的な語感からすれば、存在をかけるという意味合いが強い。知事選も当然一つの形だ。

2022年12月9日 議会答弁

県民の「命とくらしを守ることを第一に対応していく。再稼働の議論は、3つの検証結果が示された後に、条件や手続きを含め、始めたい。

長期間停止している柏崎刈羽原発の7号機を動かすことについて、再稼働の議論は、3つの検証の結果が示された後に始めたいと考えている。

花角知事は就任当時から県が独自で進める「3つの検証」の結果が出た後にリーダーとしての判断を示すとしてきました。その検証も、技術委員会、避難委員会、生活分科会の委員会、最終報告

報告書は提出済みで、残る健康分科会も最終報告書を2月初旬までの取りまとめをめざすとしています。しかし、検証総括委員会は開催の目途が立っていません。最終報告

## 県民の不安に寄り添え

3つの検証について、説明会が、昨年11月に県内3会場で開催されました。関谷直也避難委員会委員長は「県民に理解されて初めて実効性のある計画となる」と述べていました。が、当日の運営は県の考えを押し付けようとするものでした。

12月18日からの豪雪で、柏崎市内は北陸自動車道の通行止めと国道8号の渋滞が続き、上越市方面への移動が

## 原発再稼働問われる県の対応

岸田文雄首相は、昨年8月のGX（グリーン・トランスフォーメーション）実行会議で、これまで「想定しない」としてきた原発の新増設や建て替えの検討を指示し、原発を積極活用する考えを示しました。柏崎刈羽原発6、7号機を含む7基の夏以降の再稼働もめざすとし、再稼働に向けては「国が前面に立って、あらゆる対応をとっていく」と強調しました。今後、国からの働きかけが強まることが予想されます。県が独自で進める「3つの検証」も大詰めを迎えており、県の対応が問われる1年となります。



知事の姿勢をただすひぐち県議

で、委員長は県が求めていることを扱おうとしているため開催できないとしています。

県は昨年10月、ホームページの検証のトップ画面から、各委員会からの報告を受けて随時総括検証委員会を開催するとしてロードマップを移動し、県の主張にあった体制図に変更しました。検証総括委員会を開催しないことを正当化するように既成事実を積み上げてきています。

できなくなり、避難計画どおりに避難できないことが明らかにになりました。避難計画の実効性が担保されないままでの再稼働判断は、県民の命を見捨てることとなります。

12月定例会で、樋口県議の「再稼働の判断で一番重きを置くものは何か」との質問に、花角知事は「県民の『命とくらしを守ることを第一に対応していく』と答弁しています。3つの検証は政府の原発再稼働方針に沿うのではなく、県民の不安に寄り添い、広く県民の理解が得られるように進めるべきです。政府が今年夏以降に柏崎刈羽原発6、7号機を含む7基の再稼働をめざす中、花角知事の対応が注視されます。県民の不安に寄り添った対応を迫るためにも4月の県議会議員選挙は、県民の意思を示す絶好の機会です。

ひぐち県議は、玄関先や街角でみなさんの困りごとや、ご要望などを聞かせていただいています。即答できないこともあります。市議会議員や行政の力をお借りしながら、課

## 玄関先から

題の解決に向けて奮闘しています。ときには難しい課題に直面し、悩むこともあるようです。ひぐち県議の日常活動の一コマを、エピソードも交えながらお伝えします。



2021年10月、南魚沼市川窪にスーパーマーケットがオープンしました。買い物客には好評のようで、賑わっています。

一方、交通量の増加に伴い、国道17号と交差する市道は朝夕の通勤時間帯を中心に渋滞の発生が多く見られるようになりました。この市道は通学路でもあり、子どもの安全上からも道路改修の要望が寄せられていました。

また、冬期間は舗装が痛んでいるためか、雪の消え具合が悪いと消雪パイプの改修を求める声もありました。

## 渋滞解消も水がほしい

庄ノ又交差点は国道17号バイパスの終点部に位置し、バイパス完成時には取り付けのために大規模な改修が行われる予定です。市としては改修の必要性を認めつつも二重投資を避けるため、国に早期の着工を要望しています。市では国の整備を待たず、17号東側の市道を南に拡幅する工事を実施しました。右折レーンが増設されたこともあり、渋滞は大幅に改善され、地域住民だけでなく、買い物客をはじめとするドライバーからも歓迎されています。

ところが残念なことに雪の消えがよくありません。舗装はきれいになりましたが、消雪パイプの水の量が少ないのです。次は井戸の改修を求めたいと思います。

\*\*\*\*\*

「歩道の縁石が邪魔なんだけど、動かしてもらえないかしら」県道から奥まった家の方からご相談を受けました。以前は車を所有していませんでしたが、車を所有したら縁石が乗り入れの際に邪魔になるとのことでした。

現地に行ってみると、通路の入り口と縁石の位置が少しずれている

## 歩道の縁石は動かせるか

ので、車の乗り入れはできるものの不便なことがわかりました。

県地域振興局地域整備部の説明では、間口を広げることは可能だ

人負担は生じません。それ以外の場合、施工は任意の業者でかまいませんが、工事費は申請者の負担となります。家の建替えやリフォ

ム時などに歩道の縁石が支障になることがあり、申請が必要で、乗り入れ口の長さなど詳細を事前に打合せてくださいとのことでした。

道路工事と一緒に変更する場合、施工費の個

## 危機管理の大切さを痛感

危機管理の大切さを痛感した年末でした。

12月19日は新潟で会議があり、16時前に終わりました。雪が降り続き、高速道路は通行止めとなりました。

翌日は県議会連合委員会が開催されるため、多くの人が「新潟に泊まりな」と声をかけてくれました。

「今晚中には家に着けるだろう」と車を動か

したのが間違いでした。見附市に入ったのが19時頃で、ここから車はほとんど動かなくなり、車中で一晩を過ごし、家に着いたのは翌日の朝でした。

「危機管理がなっていないな」。言われるとおりです。

非常時こそ「大丈夫だろう」ではなく、細心の注意を払って行動することの大切さを痛感しました。「大丈夫か？」常に自分に問いかけながら行動します。